

令和6年度矢掛町立矢掛中学校学校評価書

校長 小野秀明 印

本校のミッション	学級数	10学級	生徒数	253人
学校教育目標	職員数	26人	家庭数	223戸
自ら考え行動する	学校関係者評価委員	岡本邦広（学識経験者・新見公立大学教授）、高月秀人（学識経験者・県立矢掛高等学校長）、藤原立志（地域住民・学識経験者・元小学校長）、渡邊求（地域住民・学識経験者・元中学校長）、守屋玉枝（地域住民・スクールサポーター）小野直子（地域住民・地域学校協働活動推進員）、小門裕美（保護者・矢掛中学校PTA会長）、中川裕之（保護者）、小野秀明（当該学校の校長）、山田真司（当該学校の教頭）、林勇介（当該学校の主幹教諭）		
	専門評価委員			

A 成果をあげている B ほぼ成果をあげている C あまり成果をあげていない D 成果をあげていない							
	領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	学習活動	自らの学びを調整できる	①生徒が単元の見通しを持ち、単元テストまでの学習を主体的に進めることができる。	教師が単元計画を提示する。また、1時間の授業の見通しとともに単元中の位置づけ等についても生徒の理解が促されるようにする。	生徒アンケート「単元テストに向けて、自分から考えて学習できていますか」の肯定的回答が90%（昨年81%）以上になる。また、アンケートの記述に、生徒の主体的な取組が読み取れる。	単元テストに対して肯定的回答が92%と達成基準を越えている。「勉強の範囲がわかりやすい」「自分の理解度を把握しやすい」などの生徒の記述が多く見られ、単元テストまでの学習を主体的に進めている様子がかうかがえる。	A
			②学習相談を生かし、生徒が主体的に学習できるきっかけにする。	目標の立て方、自分に合った学習の仕方、振り返り方等について支援する。自学、協働、質問コーナー等、自分で考えて学習方法を選べるようにする。	生徒アンケート「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の肯定的回答が、80%（昨年63%）以上になる。学習相談に参加する生徒の数が増える。	アンケートに対し、肯定的な回答が79%と達成基準に近い値であった。学習相談に参加している生徒は56.0%（1学期）から63.9%（2学期）に上昇し、主体的に学習に取り組む生徒は増えているといえる。	B
2	特別活動	協働的に学ぶことができる	①主体的に学校生活を改善するために、生徒会活動に積極的に参加することができる。	研究部会を再編し、「ウェルビーイング部会」を設け、他の教育活動との関連を深めた生徒会活動を行う。生徒会活動のねらいや成果が生徒に理解できるよう支援する。	生徒アンケート「生徒会活動に積極的に参加していますか」の肯定的回答が80%（昨年63%）以上になる。生徒会新聞や昼食時の放送などの、生徒会役員による主体的な取組が進む。	肯定的回答は68%と基準に届かなかったが、「できた」生徒は19.4%（1学期）から28.6%（2学期）に増えたことから、一定の成果は得られたと考えられる。	B
			②総合的な学習の時間において、探究サイクルを確実に回し、生徒が地域に貢献しようとする意欲を高める。	研究部会を再編し、「ESD部会」を設け、総合的な学習の時間と地域連携の分掌を統合し、持続可能な社会の創り手となれるよう援助する。「住み続けられるまちづくり」を目指す、系統的な活動を地域と連携しながら計画的に実践する。	生徒アンケート「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め、整理して調べたことを発表できていますか」に「できた」と回答する生徒が60%（昨年51%）以上になる。「こころの教室」を利用している生徒が、総合的な学習の時間に参加する。	多くの生徒が主体的に学習に取り組んでおり、「やかプロ」成功の原動力となった。しかし、「できた」と回答した生徒は4割前後と、基準を下回った。自分自身の頑張りを積極的に評価できるようにしたい。「こころの教室」を利用している生徒の多くが、総合的な学習の時間の学習の活動に参加しており、生徒にとって興味・関心の高い取組になっている。	B

分析・改善方策

・準備学習や単元テスト・再テストの取組に対しては、多くの生徒が肯定的に受け止めている。

・学習相談の取組に参加している生徒は、主体的に学びに向かうことができているようである。しかし、学習相談に参加してほしいがしていない生徒や、家庭で計画的に学習できていない生徒がいる。計画的に取り組むことの意義を伝えたり、生徒の個性に合わせた「学び方」について指導したりすることで、学習相談に参加しようとする意欲を高める必要がある。

・生徒会本部役員は意欲的に生徒会活動に取り組んでおり、来年度も生徒会活動に参加を促す放送や新聞での呼びかけを継続する。様々な活動において、生徒自身で自らの行動を選択する場面を設定することで、活動に参画している意識を高めたい。また、生徒自身が日々の委員会活動や各学級での係活動の意味を考え、生徒会活動を支えていることを自覚することによって、生徒会活動に参画している意識が高まるようにしたい。

・総合的な学習の時間の取組においては、他者との比較ではなく、その生徒自身のできているところや良いところを積極的に認め評価していくことで生徒の自己肯定感を高めたい。

学校関係者評価

- 自己評価内容は、適切である。評価項目数も精選できている。来年度もこの取組を続けてほしい。
- 単元ごとのテストは、生徒の声にあるように、学習が取り組みやすくなっていることは高く評価できる。今後は、学習の深まりと定着をより目指していただきたい。
- 生徒の成長をより確かなものにするためにも、学習相談を生かし、生徒一人ひとりに合った学習の仕方等を具体的な支援に努めてほしい。
- 総合的な学習の時間は、3年間を見通し、生徒にとって興味深い取組になっている。「こころの教室」を利用している生徒も生き生きと活動していることは素晴らしい。全教職員の共通の理解と実践で大きな成果を期待したい。
- 今後も保護者、地域住民等との連携協力による学校づくり、教育水準の保証、向上のためにも教育委員会による、さらなる効果的な支援を期待したい。